

「教育と研究を両輪とする高等教育の在り方」に関する検討について

【背景・目的】

- 第 10 期大学分科会における主な検討事項として、「教育と研究を両輪とする高等教育の在り方（大学院部会の議論も考慮）」が示されている。
- 一方で、文部科学大臣から「研究力向上改革 2019」が報告されたところである。さらに、第 10 期科学技術・学術審議会においては、総合政策特別委員会を中心に第 6 期科学技術基本計画（2021 年～2025 年）に向けた検討が進んでいる。
- また、総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）においても、統合イノベーション戦略 2019 及び第 6 期科学技術基本計画の策定に向けて議論が進んでいる。
- これらの動向を鑑み、第 10 期大学分科会においては、「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」（H30. 11. 26 中教審答申）及び「2040 年を見据えた大学院教育のあるべき姿」（H31. 1. 22 中教審大学分科会審議まとめ）も踏まえて、第 6 期科学技術基本計画に盛り込むべき重要な点について意見をとりまとめるものである。
- その後も、教育と研究を一体不可分のものとして人材育成と研究活動を行うといった観点から、大学分科会で継続的に検討することとしたい。

【当面の進め方】

6 月 13 日 大学分科会

- ・ 第 6 期科学技術基本計画の策定に向けた意見交換
- ・ 教育と研究を両輪とする高等教育の在り方の論点整理
（博士課程修了者等からのプレゼンテーションを含む）

8 月 9 日 大学分科会

- ・ 第 6 期科学技術基本計画の策定に向けた意見のとりまとめ
- ・ 教育と研究を両輪とする高等教育の在り方の論点整理

※以降、大学院部会の議論も考慮して、大学分科会で検討